

収蔵館ニュース

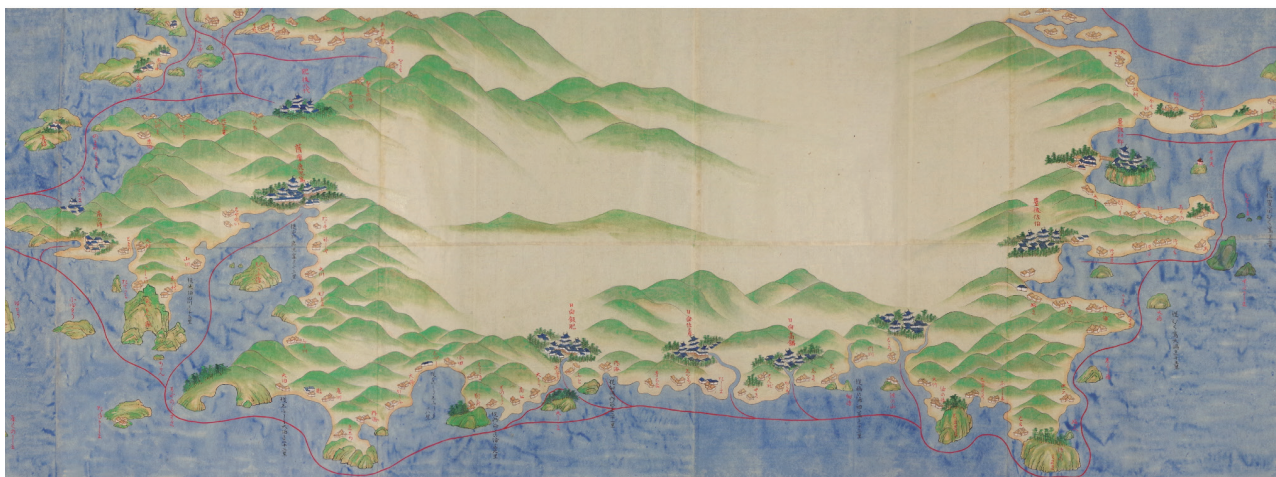
第19号
(改題通算45号)

K U R U M E C I T Y

2023.3

● CONTENTS

- ・新収蔵資料紹介
- ・六ツ門図書館展示コーナー
- ・守り、伝える
- ・活かし、伝える
- ・トピックス
「久留米藩の豪商に思い馳せる ～海山名所図会 里帰り」



海山名所図会 巻1及び巻2(部分) 作者不詳 江戸時代中期
九州の北部と南部を巻1、巻2に分けて描いている。有明海の北に久留米城がある。

新収蔵資料紹介

豪商の絵巻でたどる

江戸時代の船の旅

久留米藩随一の豪商・手津屋正助しよすけが所有した全5巻の航路図です。全長は5巻あわせて約25mに及びます。主に日本列島の太平洋側が描かれ、全体では東北から江戸、大阪を経て九州にいたります。

それぞれ内容を見ると、各地の城郭や神社仏閣といった名所のほか、所々に集落を描き、距離や航海上の注意点を文字で記した箇所もあります。なお、表現や表記の異同、押印の有無、表紙の違いなどから、巻1と巻2、巻3と巻4がそれぞれ対をなし、巻5はまた別に作成されたものと考えられます。

実際の日本列島は起伏に富み、海岸線が複雑に連なります。一方、この絵巻では、その独特の地形が長い紙面に巧みに収められ、山や海が色鮮やかに表現されています。江戸時代の手津屋の人々が、絵巻を手に航海の旅程を見て楽しむ様子が想像されます。

*関連記事(12ページへ)